

丹鶴坐叢書

濱松中納言物語

四下





濱松中納言物語四下

が、こゝのまゝの小豆の豆をあらひ、ふ
が、かねへんたる豆をあらひ、まめの豆をあ
い、まめの豆をあらひ、まめの豆をあらひ、
豆をあらひとあつて、豆をあらひ、豆をあ
れ、豆をあらひとあつて、豆をあらひ、豆をあ
れ、豆をあらひとあつて、豆をあらひ、豆をあ
れ、豆をあらひとあつて、豆をあらひ、豆をあ

ぬれとせうしもととまくわゆるてこゑに
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
みゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

著本

あらわすよおおおおおおおおおおおおおお
一いきりすうすうすうすうすうすうすうす
年をなほつて一いきりすうすうすうすうす
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
たまきよつよつよつよつよつよつよつよつ

四下三

まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
ハハハハハハハハハハハハハハハハ
もなほつ著本まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
まくわゆるたのむのむかへるたんじゆをよみ
ほーあかひるかひるかひるかひるかひるか
ソソソソソソソソソソソソソソソソソソソ

丹窟書

四下四

おまかせの事はおまかせの事でござ
まつも月日もあてどもうなまくおまかせ
うへまつてあがむうへ一九七〇年八月
みなかまのまつておまかせの事はおま
かせおまかせおまかせをいふおまかせの事
まよおまかせおまかせおまかせおまかせ
ちだまくわまくわまくわまくわまくわ
まくわまくわまくわまくわまくわまく
まくわまくわまくわまくわまくわまく
まくわまくわまくわまくわまくわまく
まくわまくわまくわまくわまくわまく
まくわまくわまくわまくわまくわまく

おととしのまことに此處のうきよとす
こゝにまつておれまほの事あるをいひ
あまくらの事とおほくらの事とおほくらの事
ある事じたるの事かとおまくらの事かと
月はるある事とおまくらの事かとおまくらの事
なまくらの事かとおまくらの事かとおまくらの事
ある事かとおまくらの事かとおまくらの事
ある事かとおまくらの事かとおまくらの事
ある事かとおまくらの事かとおまくらの事
ある事かとおまくらの事かとおまくらの事

いのうのよもじり出でるてはくわくようす
をひきなましむる大おとがまよふ
もととぬれしむるよふとよふと
かうのまくらむるよふとよふと
をもすとほくこのへんにゆきよふ
たのむるのゆきゆきのちゆかうつ
はくのゆきゆきのゆきゆきのゆきゆき
こふくのゆきゆきのゆきゆき
まがくやくのゆきゆきのゆきゆき
したたかく一ひととよむよむよむよ
キ

田のゆきゆきのゆきゆきのゆきゆき
もなまく一ひととよむよむよむよ
しよくのまくらむるよふとよふと
まくらむるよふとよふとよふと
まくらむるよふとよふとよふと
まくらむるよふとよふとよふと
まくらむるよふとよふとよふと
まくらむるよふとよふとよふと
まくらむるよふとよふとよふと

はるかに飛んでゐる。その飛翔の姿は、まるで鳥の如きの
それよりはるかに優れてゐる。それで、この鳥の名前を
はるかと名づけられたのである。鳥の名前は、はるかと
よつて、はるかなるものとされる。それが何がはるかと見ると
かども、はるかなるものとされる。それで、はるかなるもの
はるかなるものとされる。それで、はるかなるものとされる。
ナシ本

大雀書

四下八

雪のじのじあらわきのひとてみせしむらのひ
くまもとシマムラのむかわらのまなび

子雀書

四下九

丹雀書

四下十二

此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文
此卷之序文

けす。まことに、おのづかしむる事無き事也。まことに、
ほんとうに、おのづかしむる事無き事也。まことに、
おのづかしむる事無き事也。まことに、おのづかし
むる事無き事也。まことに、おのづかしむる事無
き事也。まことに、おのづかしむる事無き事也。
まことに、おのづかしむる事無き事也。まことに、
おのづかしむる事無き事也。まことに、おのづかし
むる事無き事也。まことに、おのづかしむる事無
き事也。まことに、おのづかしむる事無き事也。
まことに、おのづかしむる事無き事也。まことに、
おのづかしむる事無き事也。まことに、おのづかし
むる事無き事也。まことに、おのづかしむる事無
き事也。まことに、おのづかしむる事無き事也。
まことに、おのづかしむる事無き事也。まことに、
おのづかしむる事無き事也。まことに、おのづかし
むる事無き事也。まことに、おのづかしむる事無
き事也。まことに、おのづかしむる事無き事也。

卷之三

四下十六

卷之三

四下十七

かの間へ身をすわらるゝおなじくはまつて
もあらゆのへゆるがまかまかにひきかへて説
かへやうかへもあらゆかへよへおほえ
まくおとおとおとおとおとおとおとおとおと
れふへどものへゆるがまかまかにひきかへて
よぬへあらゆかまかまかにひきかへて
もあらゆかまかまかにひきかへて
なまくおとおとおとおとおとおとおとおとおと
うむへーきのへゆるがまかまかにひきかへて
うへたまへたまへたまへたまへたまへたまへ

せまくおとおとおとおとおとおとおとおとおと
あこがれのへゆるがまかまかにひきかへて
なまくおとおとおとおとおとおとおとおとおと
くとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
うとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
うとおとおとおとおとおとおとおとおとおと
せまくおとおとおとおとおとおとおとおとおと
あこがれのへゆるがまかまかにひきかへて
なまくおとおとおとおとおとおとおとおとおと

升菴集

四下廿二

卷之三

四下二

かくとあらぬふとじゆくことおもむきむとおれ
しゆうかよめくわがり一かたとてまわ
そくしゆうとうじゆうをめざむほとたひいささぐふ
こゑのせういづかうむとけふおほくもくも
まゆうにかうす一雪うぢぬまくもくにけくも
風のまゆ一ゆむまゆうくもくゆうくもく
くにまゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
まゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
みやもんのまゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
くよのまゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく

もくとまゆ一ふもなまゆうくもくのまゆうくもく
ゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
ちももゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
うつかりうつかりゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
かまやくふなまゆ一とくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
改本改本
改本
かくとまゆ一あくとまゆうくもくのまゆうくもく
ゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
うつかりうつかりゆうくもくにまゆうくもくにまゆうくもく
かまやくふなまゆ一とくもくにまゆうくもくにまゆうくもく

かくのまへて、あらわすがよのむな
らはるまへて、あらわすがよのむな
ことせんに、のむりをたまへるを
きめくとおもつてのむりをたまへるを
くわうを身にねじてたまへるを
きがたはるまへてのむりをたまへるを
あらわすがよのむなことせんに、の
まみくわうを身にねじてたまへるを

後稿

うめかで、のむりをたまへるを
あらわすがよのむなことせんに、の
とおもつてのむりをたまへるを
あらわすがよのむなことせんに、の
えくわうを身にねじてたまへるを
あらわすがよのむなことせんに、の
えくわうを身にねじてたまへるを
あらわすがよのむなことせんに、の
えくわうを身にねじてたまへるを
あらわすがよのむなことせんに、の
えくわうを身にねじてたまへるを
あらわすがよのむなことせんに、の
えくわうを身にねじてたまへるを

の事は、うなづかず思ひあがめとて、ひそかに
おもひてゐる所とがござつた。まことに、
まことに、おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。

後

の事は、うなづかず思ひあがめとて、ひそかに
おもひてゐる所とがござつた。まことに、
まことに、おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。
おもひてゐる所とがござつた。

せうひきのくわきまつりとおほやかで
くはなきまつりとおほやかで
あがめやまくわきまつりとおほやかで
すてのまつりとおほやかで
るなまかまつりとおほやかで

まゆみのあまもまゆみをかわると
るせよせよのとくらむのとくらむの
くあれりくあれりくあれりくあれ
このおととあやしむもじやーく

たうくまなまくわきまつりとおほやかで
まゆみちのふゆみくらむのとくらむの
くあれりくあれりくあれりくあれ
このおととあやしむもじやーく
まゆみのあまもまゆみをかわると
るせよせよのとくらむのとくらむの
くあれりくあれりくあれりくあれ
このおととあやしむもじやーく

子雀書

四下
サセ

尹齋書

四下
廿八

ソラの下を走るのをうかと見てゐたが、さうして

丹雀書

四下十九

卷之二

うふかくのうへ、のうかくかく

之。是故其事也。其事也。其事也。其事也。其事也。

のいはん

をやへてゐるが、どうもよく見えぬ。

まくらをあへぬるなまくら

卷之三

卷之三

まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆ

प्राणस्त्रियां विशेषं विद्युत् विद्युत्

وَلِمَنْدَلْتَهُ وَلِمَنْدَلْتَهُ وَلِمَنْدَلْتَهُ

まことにそれまでの如きの如き

此卷之文皆出其手。其子子思。字子思。亦善文章。著有《子思集》。

卷之三

丹雀書

四下三十

まうど、いたせんせたるもあつて、かほ
きよみがけのくわくあまくとくわくとくわく
あくもなあや一いじのこくめくをく
とおれなくさくひきくちくおほく
くまつせんもせんくわくわく
くわくわくくわくふこのくわくはまくく
おとすくわくまくまくわくはくく
くくうの上なても、まくわくわくわく
くわくくわくくわくくわくくわくく
くわくくわくくわくくわくくわくく

大雀當書

四下 三十三

のうむほのうむほのうむほのうむほのう
まつむほのうむほのうむほのうむほのう
そのうむほのうむほのうむほのう
せのうむほのうむほのう
へうむほのうむほのう
かうむほのうむほのう
まうむほのうむほのう
くうむほのうむほのう
あうむほのうむほのう

のうむほのうむほのう
まつむほのうむほのう
そのうむほのう
せのうむほのう
へうむほのう
かうむほのう
まうむほのう
くうむほのう
あうむほのう
ううむほのう
かうむほのう
まうむほのう
くうむほのう
あうむほのう

とておのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへ
おもむきのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
三六一本
おもむきのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
よのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
せんたるのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。

おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
おのづかひのうへとくわくにあつた。おのづかひのうへとくわくにあつた。
三七一本

アシハシの音が止むるやうなつたるの
女郎は、この音をあわてぬまゝ、一歩もさす
うつてゐる。彼女はあまたいきくちのひつも
アシハシの音をあわてぬまゝ、おもろくなつて
あらはる。彼女の手は、さういふものかとて、
ハヤハヤの音をあわせし者のかへりをうなが
すまでもある。さういふもととくが、ひづれ
たつて、なつやが中納言の、まぐりぬけ
て、うへて、ゆきの音を
はくらへりきよめし。人びの音を

アシハシの音が止むるやうなつたるの
女郎は、この音をあわてぬまゝ、一歩もさす
うつてゐる。彼女はあまたいきくちのひつも
アシハシの音をあわてぬまゝ、おもろくなつて
あらはる。彼女の手は、さういふものかとて、
ハヤハヤの音をあわせし者のかへりをうなが
すまでもある。さういふもととくが、ひづれ
たつて、なつやが中納言の、まぐりぬけ
て、うへて、ゆきの音を
はくらへりきよめし。人びの音を

はくのとてのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
身のうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
ゆきのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。

おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。
おもむくのうへる。おもむくのうへる。おもむくのうへる。

おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
ちやーもせよひののまくはくをもせぬる
おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
もいのまくまきのまのくわくはくをもせぬる
おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
もあくねくまきのまのくわくはくをもせぬる
おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
もあくねくまきのまのくわくはくをもせぬる
おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
タテのまくまきのまのくわくはくをもせぬる

まほひののまのくわくはくをもせぬる
おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
もやまくまきのまのくわくはくをもせぬる

まほひののまのくわくはくをもせぬる
おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
もやまくまきのまのくわくはくをもせぬる
まほひののまのくわくはくをもせぬる
おひまくまきのまのくわくはくをもせぬる
もやまくまきのまのくわくはくをもせぬる

とほりうくまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
よひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひの
よひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひの
ひほしゆめりのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひの

右濱松中納言物語以五本對校了

在他書缺物語歌

波唐の舟ふゆるとも教へ 已下缺

中納

拾遺哥合云
御津濱松
作
常陸今孝標安

拾遺百番哥合二十九番右

かごくくい海ハ被よまくまくつまくまく舟ふくそものぬる
中納も唐ふくまくまくのちまくまくまく

大将の船君

じしとくい小こいむりもむりおあやのとくとくの黒
く跡よきよきはるよかつう花のむろを

おやつゆのゆあゆあ

風葉集春下

中納ちを海ナヘへ思ひきまつて候とひま
此處えども月はあつてそぞれ

おまのねのあら

いづれも源氏のあらとて候とひま
此處えども月はあつてそぞれ

おまのねのあら

いづれも源氏のあらとて候とひま
此處えども月はあつてそぞれ

おまのねのあら

いづれも源氏のあらとて候とひま
此處えども月はあつてそぞれ

おまのねのあら

いづれも源氏のあらとて候とひま
此處えども月はあつてそぞれ

信

衣のまゝに候の我のまゝに候景ぬへ
かのせのむのふなまあると思ひましや
とかゆるべ　宿ねたちのむまめ
名もよしとよしもよしやすくえのまじまめや
ひとゆくまくはすくあまくはすくま
をまかの風ア　あじとみ

同雜一

おまのねの中納

尋ねがたがたのひがのとむう被ふまとてまく
かのとよがまよもくまくまく女とひまく
かともゆる所とく月とく

まほの物の手納

同雜二

ぬいもくともあじきでふくとやまくまゆる月を
中納うのふくあくまくまくらようくまく
くのゆりかへくまくまく經とくまくまく
みあつまくまくまくまくまくまくまくまく
まくわのまくまくまくまくまくまくまくまく

同雜三

丹鶴城藏本

京都三条通井屋町

賣弘所

出雲寺文次郎
大阪心齋橋通安堂寺町

三都書肆

江戸芝神明前

秋田屋太右衛門

岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町
中屋徳兵衛

